地域とともにある教育活動の推進

〜 学校・家庭・地域で紡ぐふるさとの絆 〜

柳井市立柳井南小学校

１　はじめに

【フェニックスの似合う校舎】

本校は、柳井市の南部、柳井湾沿いに位置し、温暖で豊かな自然に囲まれた環境にある。平成１７年４月に伊保庄小学校と阿月小学校が統合し、柳井南小学校としてスタートした。令和５年度児童数は５１名で、複式学級を２つ有する小規模校である。校区内には「八幡山古墳群」や国の重要無形民俗文化財指定の「阿月神明祭」がある。また、維新の志士を多く輩出した私塾「克己堂」の表門も残っており、文化・教育への関心が高い土地柄である。

開校以来、学校・家庭･地域がよりよい関係を築きながら、地域の宝である子どもたちを大切に育んでおり、恵まれた環境の下、本校の児童は、素直で優しくのびのびと育っている。

２　活動の実際

(1)　稲作体験

毎年､地域の方の水田を体験田として借用し､地域の方のご指導ご協力のもと､児童が籾まき･田植え･稲刈り･餅つきの体験学習を行っている。今年度も５年生が苗床づくりから行い、籾まき後、苗を育成して、５月 23 日に全校児童で田植えを行った。今年で 32 年目となる。

10 月３日には、全校で稲刈りを行った。地域の方に教えていただきながら、１年生も鎌を使って稲刈りを体験した。保護者のお手伝いもあり、全校児童全員で、けがもなく実施できた。今年度は、天候の関係で、稲が倒れていたが、６年間体験した６年生の手際よさのおかげで、無事に刈り取ることができた。

２月 16 日、「伊保庄餅つき唄保存会」の方とともに餅つきをおこなった。100 年以上続く「伊保庄餅つき唄」を全校児童で歌いながら、木臼と杵で餅をつく様子は圧巻であった。収穫の喜びを味わうとともに､伝承されてきたふるさとの文化を肌で感じることができたことは大きな成果である。

（２）和太鼓練習と柳井市小中学校音楽会・かがやき発表会

和太鼓「皆波（みなみ）」は、学校統合の際、阿月地区と伊保庄地区の２つの地域の文化と人々の心を融合し、学校が新たな地域の核となるようにと考えられたオリジナルの演奏曲で、本校の伝統として長い間、児童から児童に引き継がれている。毎年６月になると、阿月地区から「阿月神明祭」で使われている本物の「神明太鼓」を借りて、本格的に練習を始めている。今年度も太鼓をお借りし、６月 26 日から練習に取り組んだ。さらに、和太鼓「皆波」を作曲した方を講師として招聘して指導を受け、演奏のレベルアップを図った。

【柳井市音楽会で堂々と演奏する児童】

11 月２日の「柳井市小中学校音楽会」では、4～6 年生児童 28 名が和太鼓「皆波」の演奏でオープニングを飾り、会場の雰囲気を盛り上げた。今年度は保護者や地域の方も観客席で演奏を聞くことができ、多くの人に迫力のある和太鼓演奏を届けることができた。

また、11 月 11 日には、本校で「かがやき発表会」を実施した。学年毎の学習の成果の発表と和太鼓演奏を行った。一年間の最後の舞台となる「かがやき発表会」での和太鼓演奏を保護者や地域の方々は毎年大変楽しみにされている。児童も今年度の和太鼓を使った演奏が最後になるので、万感の思いを込めて本番に臨んだ。児童の思いのこもった心と体に響く太鼓の鼓動が会場全体を包み込み、力強いかけ声と見事な演奏で全員を魅了した。

さらに、今年度は、かがやき発表会のすぐ後に、「太鼓の引き継ぎ式」を行った。指導者の方が６年生だけによる演奏曲をプレゼントしてくださった。新しい動きも加わり、オンリーワンの心に残る演奏であった。演奏の後、６年生一人ひとりが３年間和太鼓に取り組んだ思いや後輩たちへの思いを発表した。後輩たちは、太鼓のばちと共に、感無量の思いをしっかりと引き継いでいた。

【思いを引き継ぐ】

このように、本校の和太鼓演奏は児童、保護者、地域の方々のみんなの心のよりどころであるとともに、伝統文化発信の要となっている。和太鼓演奏を地域の学習素材として「学校・地域連携カリキュラム」に位置づけ、活動を通して、地域の伝統文化を大切に受け継いでいる。

３　成果と課題

「稲作体験」や「和太鼓練習」を通して、児童は、ふるさとの人やもの、ことを大切にし、「ふるさとを愛する心」を育んでいる。地域の方々からも、「子どもたちが一生懸命に取り組んでいる姿を見ると元気になる。」「子どもたちが地域の伝統文化である『神明太鼓』の担い手として育っていることがうれしい。」という感想をいただき、毎年高い評価を得ている。学校と家庭、地域が力を合わせて特色ある本校の伝統的な取組を継続･発展させることで、郷土愛や地域貢献への気持ちも育むことができていると実感している。さらに、今年度は、「阿月神明祭」に伊保庄地区の児童が踊り手として初めて参加することができ、学校を中心として、２つの地区の絆が深まっていることを確信した。

課題としては、今後の児童数の減少により、文化の担い手が減ってくることである。また、太鼓の指導ができる教員の育成、太鼓を運ぶ人員の不足、太鼓運搬の資金繰りなども課題となっている。今後も、地域と共にある教育活動の意義をしっかりと発信し、周りの大人の理解も求めながら、学校と家庭、地域が手を取り合って、ふるさとの絆を紡いでいきたい。